

下田遺跡 4

—下田遺跡7区発掘調査報告書—

2021. 5

埼玉県坂戸市教育委員会

序 文

坂戸市は埼玉県のほぼ中央部にあたり、関越自動車道や首都圏中央連絡自動車道など関東地方の交通を支える道路網の結節点に位置しています。地勢をみると市内の大部分は平坦な台地で占められており、越辺川や高麗川沿いに形成された広大な沖積平野には、豊富な水源と豊かな耕作地が広がっています。その結果、約1万5千年前から続く先人たちの生活の痕跡が大地に刻み込まれ、遺跡として今もお私たちの足元に眠っています。

本報告の「下田遺跡」は、高麗川によって形成された沖積地に存在している遺跡です。平成25年に開通した坂戸西スマートインターチェンジは遺跡の中央にあたり、その周辺では企業誘致を含めた入西土地区画整理事業が実施され、各街区における企業の誘致が進んでおります。

今回の発掘調査では、近年まで機能していた霞提や、弥生時代から古墳時代にかけて埋没したとみられる流路跡を発見しております。流路跡からは当地が高麗川の氾濫原として常に水の作用に晒されていたことが想起されます。また、不連続に築かれた堤防である霞提は、洪水時に水田地帯へ水を誘導し、河川流量を調節する役目を担うとともに、上流から水によって流下した肥沃な土壌を耕作地へ誘引する機能を有しており、近年まで改修を重ねながら、私たちの生活を守り続けていました。霞提からも、この地に住み農業を営んだ人々の知恵や苦勞を窺い知ることができます。

これらの調査成果は、坂戸に住む先人たちが自然と常に向き合い共存してきた姿を現在に生きる私たちへと伝えています。本書が郷土の歴史を育む文化財保護への意識を醸成し、広く御活用いただければ幸いです。最後になりましたが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで地権者をはじめ、多くの関係者の方に御協力賜りましたことを深く感謝申し上げます。

令和3年5月

坂戸市教育委員会
教育長 安齊 敏雄

例 言

1. 本報告書は、埼玉県坂戸市西インター1丁目1-1、1-2に所在する下田遺跡（遺跡No.27-155）7区の発掘調査の記録である。
2. 発掘調査は坂戸市教育委員会が事業所建設に先立ち実施したもので、国際文化財株式会社が協力した。
3. 調査期間、調査面積、調査体制は下記の通りである。
発掘期間：令和3年（2021）2月22日～同年3月5日、整理期間：令和3年（2021）3月5日～同年5月31日
調査面積：12㎡
調査担当：山本良太（坂戸市教育委員会）
調査員：吾妻俊典、川尻大（国際文化財株式会社）、調査参加者：嶋倉浩一 塚田洋介 仁田剛 安田基之
4. 発掘調査と報告書作成の費用は、株式会社杉孝グループホールディングスが負担した。
5. 執筆と編集は吾妻と山本が行った。
6. 調査の記録は坂戸市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 座標値は世界測地系に基づき、挿図中の北は座標北である。標高は東京湾平均海面（T.P.）である。測量基準は、2級基準点（TP04-2-12、 $X = -4042.556$ 、 $Y = -40589.433$ 、 $Z = 29.91$ ）と3級基準点（TP04-3-025、TP04-3-026）から導いた1街区北の埋設基準点（4TD24、4TD25、4TD26）を使用した。
2. 図の縮尺は各図に示した。
3. 引用した既存の地図は以下のとおりである。
第1図 国土地理院「平成7年（1995）発行、川越1/50,000」、第2図 坂戸市基本図「1/2,500」、
第5図 参謀本部測量「明治18年（1885）測量、阪戸二万分の一」、大日本帝国陸地測量部「大正5年（1916）発行、川越五万分の一」、国土地理院「昭和57年（1982）発行、川越1/25,000」

目 次

例言／凡例／目次	
第1章 発掘調査の経緯と経過及び方法	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 調査の方法	2
第2章 遺跡の立地と環境	
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 発掘調査の成果	
第1節 調査区内の層序	6
第2節 発見した遺構—流路跡—	9
第4章 まとめ	10
引用文献、参考文献	
報告書抄録	
挿図挿表目次	
第1図 下田遺跡周辺の遺跡	3
第2図 調査区（7区）位置図	5
第3図 調査区北壁断面	7
第4図 溝跡と水田跡	8
第5図 地図にみる霞堤	8
第6図 流路跡	9
表 下田遺跡における既往の調査	4

第1章 発掘調査の経緯と経過及び方法

第1節 調査に至る経緯

令和2年(2020)8月31日、開発計画者(以下、地権者)から坂戸市西インター1丁目1-1、1-2について埋蔵文化財の照会があった。坂戸市教育委員会(以下市教委)は当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である下田遺跡の範囲で、隣接地で中世以降の溝状遺構、古代の水田、弥生時代末から古墳時代前期の流路跡が見つかったことから(市教委2017)、工事に際しては発掘調査が不可欠で調査体制を整える必要があると回答している。その後同年11月20日に地権者から開発計画書の提出があり、市教委は同年3年(2021)2月15日付けで埼玉県教育委員会(以下県教委)教育長あてに文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出(坂教社発第81号)を提出した。この届出に対して県教委から同年2月15日付け通知(教文資第4-1840号)で指示があり、市教委は同年2月15日付けで文化財保護法第99条に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知(坂教社発第80号)を県教育長あてに送付した。市教委は調査体制について県教委と協議の上、民間調査組織の調査支援を受けることとした。同年2月18日、地権者、国際文化財株式会社、市教委の三者で発掘調査事業を円滑に進めるための三者協定書を取り交わし、同年2月22日より発掘調査を開始した。

第2節 調査の経過

発掘調査は令和3年2月22日から3月5日の期間に行っている。掘削に際しては、隣接する下田遺跡2区-B2で調査している32号溝状遺

構、1号水田跡、6号流路跡の各遺構検出面に留意し、標高を確認しながら進めている。日ごとの経過は、次のとおりである。

2月22日(月) 調査区の設定。重機の搬入。仮設事務所(ユニット・ハウス)の設置。調査地及び周辺の草刈り。

2月24日(水) 機材の搬入。重機による表土等の掘削開始。調査区壁の成形と精査。

2月25日(木) 重機による盛り土等の掘削。調査区壁の成形と精査。

2月26日(金) 重機掘削。32号溝状遺構の続きの溝跡の検出と断面視察。調査区壁の精査。

3月1日(月) 32号溝状遺構の続きの溝跡を掘削し、この面で他の遺構が無いかを調査。1号水田跡と同様な高さの水田跡の検出し、この面で他の遺構が無いかを調査。

3月2日(火) 水田跡の掘削。写真撮影。遺構計測。6号流路跡の続きの検出と掘削。

3月3日(水) 流路跡の掘削。写真撮影。遺構計測。

3月4日(木) 重機による埋め戻し。地権者側の現場確認。

3月5日(金) 埋め戻し終了。発掘機材とユニット・ハウスの搬出。

調査成果の整理から報告書刊行の期間は同年3月8日から5月31日である。遺構については、図面表記の統一と平面と断面の整合、土層注記の統一、写真等記録媒体の整理、文章執筆を3月25日まで行い、その後図版作成と修正を加えながら編集作業を行った。

写真はデジタルカメラのデータをDVD-Rに焼

き付け、モノクロネガフィルムは専用ケース(HAKUBA35mm用CLEAR NEGA PHOTOアルバム)に収納し、紙焼きしたものを台紙に貼付した。遺構のトレースはAdobe IllustratorCC、写真の加工はAdobe PhotoShopCC、編集はAdobe IndesignCCを使用した。これらの作業と関連させながら図面、写真、遺構の3種類の台帳を作成している。報告書は5月31日に完成した。

第3節 調査の方法

表土は0.45㎡バケットの重機を用いて掘削

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

坂戸市は埼玉県東部のほぼ中央に位置する面積41.02km²、人口約10.1万人の都市である。標高は西の外秩父山地につながる多和田地区が60～110m前後とやや高く、市域の大部分を占める入間台地が標高30～50m前後、北東の荒川低地が23～30m前後の西高東低で、総じて起伏がなく緩やかな地である。下田遺跡は、入間台地北東側にあたる毛呂台地と高麗川に挟まれた台地縁辺から低地にかけて所在する。報告する同遺跡7区の調査地は、高麗川のすぐ左岸にあたる後背湿地にあたり、河川の影響を受けやすい標高27m前後の低地にあたる。遺跡とその周囲には水田耕作地が一带に広がり、集落を河川氾濫から護る霞堤と呼ばれる非連続の堤防も築かれていた。しかし近年は関越自動車道坂戸西スマート・インターが開設し、物流倉庫群が造られるなど開発が進み、土地の使われ方も景観も変わりつつある。

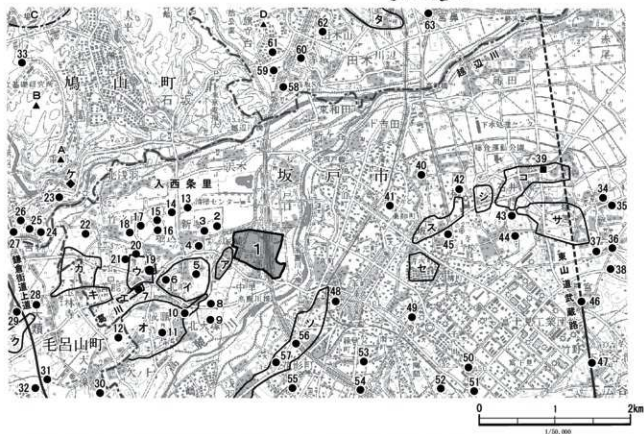
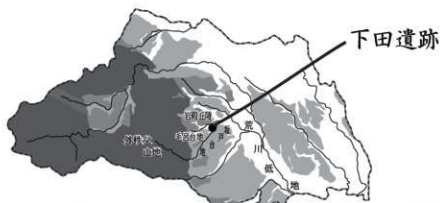
し、その後人力による遺構確認作業を行っている。検出した遺構は平面プランの確認後、土層観察を行い、分層し、土層注記、写真撮影、面図等の記録を作成した後に完掘した。

遺構図面の作成は、トータルステーションを用いた。写真撮影は、35mmフィルムカメラ(NikonF3、コダックモノクロTMAX100)、デジタルカメラ(NikonD5300、2400万画素)を使用した。

第2節 歴史的環境

坂戸市内では埋蔵文化財が152遺跡登録されている(2021年5月30日現在)。登録遺跡は旧石器から近世の各時期におよぶが、縄文時代から古代の遺跡が特に豊富である。また下田遺跡ではこれまで表のように91,020㎡の発掘調査が行われ、4冊の報告書(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2013、坂戸市2012、坂戸市教育委員会2017、坂戸市教育委員会2019)が刊行されている。下田遺跡周辺の各時代の傾向を概観しながら下田遺跡の遺構の動態を紹介すると次のようになる。旧石器時代については、坂戸台地東の木曾免遺跡で石器集中地点を調査しているほか、同台地南の中小坂地区などで遺物が採取されている。市域での遺跡数も遺物も相対としては少なく、下田遺跡とその周辺での報告例はない。縄文時代の遺跡は坂戸台地、毛呂台地を中心に分布する。早期が少なく、前期と中期に増加し、後期や晩期になると減少する傾向がある。下田

埼玉県坂戸市



1 下田遺跡	13 中耕遺跡	25 天神台遺跡	37 住吉中学校遺跡	49 山田遺跡	61 緑山遺跡	コ 勝呂古墳群
2 足代遺跡	14 広面B遺跡	26 小路谷遺跡	38 清進場遺跡	50 若葉台遺跡	62 大木山遺跡	ク 塚越古墳群
3 金井遺跡	15 桑原遺跡	27 船遺跡	39 善呂遺跡・善呂庵寺	51 富士北一丁目遺跡	63 大西遺跡	シ 新町古墳群
4 内出遺跡	16 田島遺跡	28 沼浦遺跡	40 宮ノ前遺跡	52 池ノ台遺跡	ア 塚崎古墳群	ス 片柳古墳群
5 西浦遺跡	17 棚田遺跡	29 堂山下遺跡	41 齊山・室戸ヶ谷遺跡	53 一天狗遺跡	イ 北峰古墳群	セ 新山古墳群
6 中原遺跡	18 稲荷前遺跡	30 主至上遺跡	42 勇福寺遺跡	54 脚折山田遺跡	ウ 三福寺古墳群	ソ 浅羽野古墳群
7 大河原遺跡	19 三福寺遺跡	31 西ヶ谷北遺跡	43 終遺跡	55 羽折遺跡	エ 大河原遺跡	タ 毛塚古墳群
8 沼端遺跡	20 塚の越遺跡	32 鎌倉遺跡	44 石井前原遺跡	56 花影遺跡	オ 成願寺古墳群	A 赤沼地区築群群第11支群
9 中込北遺跡	21 稲荷森遺跡	33 境田遺跡	45 相模場遺跡	57 宮裏遺跡	カ 苦林古墳群	B 山田塚群
10 木瓜田遺跡	22 長岡遺跡	34 新田前遺跡	46 町東遺跡	58 駒屋遺跡	キ 善能寺古墳群	C 鳩山塚群
11 若宮遺跡	23 赤沼高在家遺跡	35 明泉遺跡	47 宮廻館跡	59 立野遺跡	ク 川角古墳群	D 根平遺跡
12 常楽寺遺跡	24 天神台東遺跡	36 宮町遺跡	48 坂戸神社遺跡	60 大塚原遺跡	ケ 十部塚古墳群	

第1図 下田遺跡周辺の遺跡

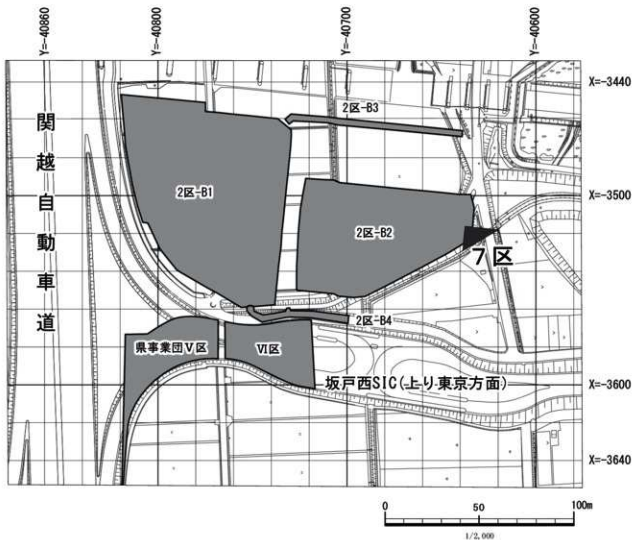
第2章 遺跡の立地と環境

調査区	調査地点	調査期間	調査地	調査面積 (㎡)	遺構					遺物				調査事項	
					弥生時代 前期	弥生時代後期～古墳時代前期	古墳時代前期	古墳時代後期	古墳時代後期(高麗半島時代)	中世以降	弥生 土器	古 土器	中 世 遺 物		近 世 遺 物
坂戸市 教育委員会	1R-1	2008.8.8 ～2011.1.28	下野川遺跡	3,401	-	-	土瓦1、溝跡1	-	-	-	弥生土器1、土瓦20、溝跡10		●●●●●		坂戸市302 【下野川遺跡1】
坂戸市教育委員会	2R-1	2008.8.1 ～2011.4.30	坂戸川遺跡	10,132	-	-	弥生土器1、溝跡1	-	-	-	弥生土器2、溝跡1、土瓦1、大甕土器1、土瓦1、弥生土器1、土瓦1、弥生土器1、土瓦1		●●●●●		坂戸市303 【坂戸川遺跡】
坂戸市 教育委員会	2R-11	2008.8.1 ～2011.4.30	上野川遺跡	2,300	-	-	弥生土器1、弥生土器1、土瓦1、伊賀土、ヒコトシ	-	-	-	土瓦1、溝跡遺構1、坂戸遺2		●●●●●		坂戸市307 【上野川遺跡1】
坂戸市 教育委員会	2R-12	2008.8.1 ～2013.4.22	上野川遺跡	4,723	-	-	-	-	-	-	土瓦1、溝跡遺構1		●●●●●		坂戸市307 【上野川遺跡2】
坂戸市 教育委員会	2R-13	2008.8.1 ～2011.4.30	上野川遺跡	5,305	-	-	-	-	-	-	坂戸遺物跡1、伊賀土、溝跡遺構1		●●●●●		坂戸市307 【上野川遺跡3】
坂戸市 教育委員会	2R-18	2008.8.1 ～2011.7.2	上野川遺跡	10,729	-	-	弥生土器1、弥生土器物跡1、弥生土器物跡1、土瓦1、堀跡1、溝跡遺構1、伊賀土、溝跡遺構1、ヒコトシ	-	-	-	弥生土器1、土瓦1、溝跡遺構1、土瓦1、溝跡遺構1、伊賀土、溝跡遺構1、ヒコトシ		●●●●●		坂戸市307 【上野川遺跡4】
坂戸市 教育委員会	2R-19	2008.8.1 ～2015.4.7	上野川遺跡	10,394	-	-	土瓦2	-	-	-	坂戸遺2		●●●●●		坂戸市307 【上野川遺跡5】
坂戸市 教育委員会	2R-9	2008.8.1 ～2014.4.29	上野川遺跡	6,804	-	-	弥生土器1、弥生土器物跡1、土瓦4、溝跡遺構1	-	-	-	坂戸遺1、土瓦1、溝跡遺構1、ヒコトシ		●●●●●		坂戸市307 【上野川遺跡6】
坂戸市 教育委員会	2R-9	2008.7.7 ～2015.4.29	上野川遺跡	420	-	-	弥生土器1、土瓦2、ヒコトシ	-	-	-	坂戸遺1		●●●●●		坂戸市307 【上野川遺跡7】
坂戸市 教育委員会	3R	2008.12.10 ～2017.4.10	上野川遺跡	6,965	-	-	弥生土器1、弥生土器物跡1、土瓦9、溝跡遺構1、ヒコトシ	-	-	-	坂戸遺物跡1、伊賀土、土瓦1、溝跡遺構1、ヒコトシ		●●●●●		坂戸市308 【上野川遺跡8】
坂戸市 教育委員会	4R	2008.12.10 ～2017.4.10	上野川遺跡	200	-	-	-	-	-	-	土瓦1、溝跡遺構1、ヒコトシ		●●●●●		坂戸市307 【上野川遺跡9】
坂戸市 教育委員会	5R	2008.1.5 ～2014.1.9	上野川遺跡	4,392	-	-	弥生土器1、土瓦1、溝跡遺構1、ヒコトシ	-	-	-	坂戸遺物跡1、伊賀土、土瓦1、溝跡遺構1、ヒコトシ		●●●●●		坂戸市308 【上野川遺跡10】
坂戸市 教育委員会	6R	2010.1.8 ～1(遺跡9)	高麗川遺跡	101,400	-	-	-	-	-	-	-				坂戸市309 【高麗川遺跡】
坂戸市 教育委員会	7R	2010.1.12 ～2011.11.11	高麗川遺跡	12	-	-	溝跡1	-	-	-	-				坂戸市309 【高麗川遺跡】

表 下田遺跡における既往の調査

遺跡では後期の深鉢など土器が僅かに出土している。高麗川を挟んだ対岸の花影遺跡では、中期の堅穴建物跡を12棟調査している。弥生時代は埼玉県内諸相と同じく、中期以降に遺跡が確認でき、後期から古墳時代前期の「吉ヶ谷式期」に飛躍的に増加する。下田遺跡では中期の遺物が僅かに出土し、この時期と考えている土坑2基のみつかっているほか、吉ヶ谷式期の堅穴建物跡や掘柱建物跡を30棟以上調査している。下田遺跡のすぐ西に位置する毛呂台地縁辺沖積地の中耕遺跡(13)、広面B遺跡(14)、稲荷前遺跡(18)などで古墳時代前期の方形周溝墓が125基

以上調査されている。高麗川対岸の坂戸台地縁辺部でも集落や方形周溝墓群を調査しており、毛呂台地、坂戸台地の縁辺を中心に遺構が密に分布する。中期に遺跡が断絶するが、後期になると再び台地縁辺に集落や古墳群が造られている。下田遺跡でも後期になると再び遺構数が増え、堅穴建物跡や掘柱建物跡が100棟以上調査されている。このように弥生時代後期から古墳時代後期の下田遺跡は、周辺地域と同じ歩みを示すとともに、この地域では特に大規模な集落であった。7世紀後半になると東山道武蔵路沿いに勝呂庵寺(39)が造られ、下田遺跡と越辺



第2図 調査区(7区)位置図

川を挟んで対岸となる岩殿丘陵上には南比企窯跡群が開窯する。8世紀になると若葉台遺跡(50)、山田遺跡(49)、池ノ台遺跡(52)など、これまで遺跡が確認されていなかった坂戸台地の中央側に大集落が出現し、奈良、平安時代を通し集落が維持されていく。これに対し下田遺跡では調査した竪穴建物跡の数も6棟と前代に比べ閑散とし、水田跡と溝状遺構が縦横に張り巡らされるようになり、集落域から生産域中心の場に大きく変化する。中世になると下田遺跡では100棟近くの掘立柱建物が調査され、屋敷跡があったことなどがわかっている。時期は井

戸杵の年代から11～13世紀頃と推定している。この時期、西入間地域では入西遠弘、浅羽行成親子など鎌倉御家人の活動痕跡が板碑、館跡、地名などに残されており、下田遺跡も立地から浅羽氏支配下の村落であった可能性が高い。中世後期になると現在の坂戸駅周辺に坂戸宿が開かれ、近世には日光脇往還の宿場町として栄える。近代には東上鉄道の坂戸町駅(現坂戸駅)、東武鉄道の北坂戸駅が建設され、高麗川の右岸は今の市街地を中心に開発が進む。一方、下田遺跡がある左岸一帯は近年まで水田耕作が広がる地帯であった。

第3章 発掘調査の成果

第1節 調査区内の層序

調査区の平面は三角形で、南西側は以前の発掘調査の埋土、南東側は現代の品が含まれる溝の堆積土のため、北壁が最もよく層準を示していた。北壁層序は第3図のように1層から21層に区分した。これを大別し、色調と堆積の要因を説明すると次のように示すことができる。

- 1層 暗褐色シルト。表土。
- 2層 暗褐色シルト。下田遺跡2区-B2の発掘調査後の埋め戻し土。
- 3層 暗褐色シルト。前の発掘調査時に機能していた新田一中里間の道路路床。
- 4層 暗褐色砂質シルト。新しい溝跡の堆積層。現代の品を含む。
- 5～9層 暗褐色シルト。道路と堤防間の現代の堆積層。

- 10～11層 にぶい黄橙色シルト。堤防の盛土。
 - 12～13層 にぶい黄褐色シルト。にぶい褐色シルト。古い土手の盛土。
 - 14層 黒褐色粘土。溝跡の覆土。
 - 15層 浅黄橙色粘土質シルト。水田跡堆積層。現代の品を含む。
 - 16層 浅黄橙色粘土質シルト。水田畦畔跡の盛土。
 - 17～20層 灰白色粘土質シルト。流路跡堆積層。
 - 21層 暗オリーブ灰色砂礫。この周囲一帯に分布し基盤となる層。
- 14層の溝跡は、本遺跡2区-B2で32号溝状遺構(市教委2017、1分冊、403-404頁)としたものの続きである。16層、17層の水田跡と重複し、これよりも新しい。水田跡には現代の品が複数含まれており、溝跡と今回検出した水田跡は現

調査区北壁断面状況(南から)

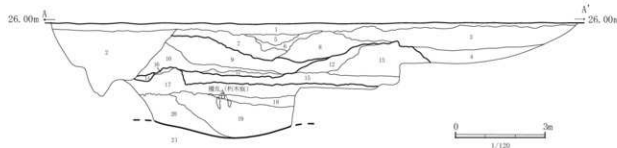


代のものである。

また12層と13層は、霞堤と呼ばれる堤防である。これもより下層の水田跡に上述のように現代の品が含まれることから、本調査区内の霞堤の盛土も現代のものである。参謀本部測量地図「明治18年(1885)測量、阪戸二万分の一」によると本調査区手前で堤防が途切れている。そ

の後大日本帝国陸地測量部「大正5年(1916)発行、川越五万分の1」では本調査区まで堤防が延長して記載されている。

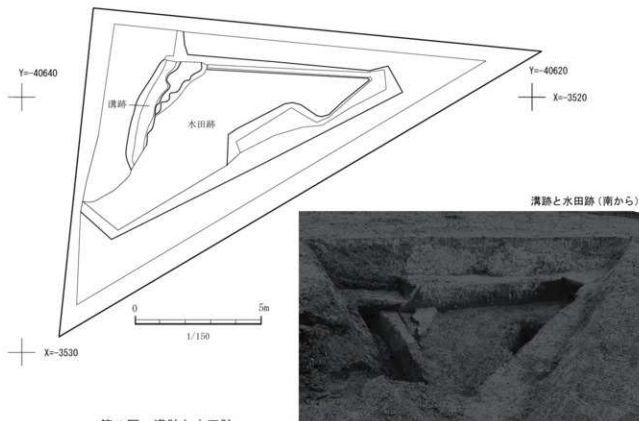
次節では、今調査で唯一遺構として報告する17～20層の流路跡について説明する。



層 色調、特徴など

- 1 暗褐色シルト 粘性が弱く、しまる。砂礫を多く含む。〈表土〉
- 2 暗褐色シルト 粘性が弱く、しまる。砂礫を特に多く含む。〈2区-B。調査後の埋戻し土〉
- 3 暗褐色シルト 粘性がなく、しまる。シルト質の土と砂礫が互層となり水平堆積する。層の上ほど砂礫を多く含む。〈道路の跡床〉
- 4 暗褐色砂質シルト 粘性がなく、しまりが弱い。現代の物(空き缶、ポリエチレン袋など)を含む。〈道路跡床の下にあった溝〉
- 5 暗褐色シルト 粘性がなく、しまりが強い。現代の物(ガラス瓶など)を含む。層の上のほうに砂礫を多く含む。〈道路と堤防間の現代の堆積層〉
- 6 暗褐色シルト 粘性がなく、しまりが弱い。〈道路と堤防間の現代の堆積層〉
- 7 褐色シルト 上層より明るい色調である。粘性が弱く、上層よりもしまる。現代の物(ビニールやガラス片)を含む。〈道路と堤防間の現代の堆積層〉
- 8 灰黄褐色シルト 粘性が弱く、しまりが弱い。現代の物(ガラス瓶など)を含む。〈道路と堤防間の現代の堆積層〉
- 9 にぶい黄褐色シルト 粘性が弱く、上層よりもしまる。プラスチックの破片を含む。〈堤防が壊れた堆積層〉
- 10 にぶい黄褐色シルト 粘性が弱く、しまる。褐色土をブロック状に全体に含み、盛土の層相が顕著である。〈堤防盛土〉
- 11 にぶい黄褐色シルト 粘性が弱く、しまる。8層より大きな褐色土ブロックを全体に含む。〈堤防盛土〉
- 12 にぶい黄褐色シルト 粘性が弱く、しまる。褐色土をブロック状に全体に含み、盛土の層相が顕著である。〈古い土手の盛土〉
- 13 にぶい褐色シルト 粘性が弱く、しまりが強い。〈古い土手の盛土〉
- 14 黄褐色粘土 粘性が強く、しまる。〈溝壁土〉
- 15 淡黄褐色粘土質シルト 粘性が強く、しまる。隙間されたブロックの塊を全体に含む。酸化鉄が多く集積する。現代の品(磚子、鉄軸の管)を含む。〈水田堆積層〉
- 16 淡黄褐色粘土質シルト 粘性が弱く、しまる。17層に褐色系シルトが若干混じる色調で、15層よりも僅かに暗い色調である。〈水田畦畔の盛土〉
- 17 灰白色粘土質シルト 粘性が弱く、しまる。褐色土、マンガシや酸化鉄を多く含む。〈流路堆積層〉
- 18 暗褐色粘土質シルト 粘性が強く、しまる。暗褐色土を全体に含み、淡黄褐色の水が流れた層相を示す。炭化物を僅かに含む。〈流路堆積層〉
- 19 暗褐色粘土質シルト 粘性が強く、しまる。18層より幾分明るい色調である。暗褐色土を全体に含み、淡黄褐色の水が流れた層相を示す。朽ちた木、炭化物を僅かに含む。〈流路堆積層〉
- 20 暗褐色粘土質シルト 粘性が強く、しまる。褐色土を全体にブロック状に多く含み、塊状の層相である。炭化物を少量含む。〈流路堆積層〉
- 21 暗褐色砂質シルト 粘性がなく、しまりが全くない。径10mm以下の小礫で構成する。崩れやすく分層することができないが、基礎となる層であるほか、上層の一部は流路堆積層の可能性がある。

第3図 調査区北壁断面



第4図 溝跡と水田跡



①明治18年(1885)



②大正5年(1916)



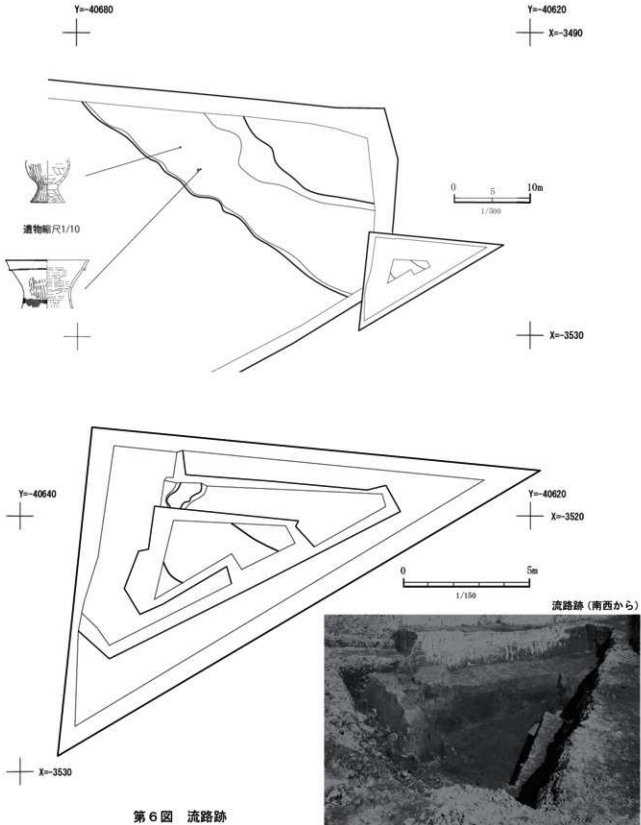
③昭和57年(1982)

第5図 地図にみる霞堤

第2節 発見した遺構—流路跡—

検出した遺構は、流路跡1条である。この流

路跡は下田遺跡2区-B2で調査した6号流路跡（市教委2017、1分冊、285-287頁）の東側と接続する。



第6図 流路跡

【流路跡】(第6図)。

位置：調査区全域が流路内である。

形態：断面形は不明である。西から東に底が低くなっている。

規模：今回調査したのは東西5.5mで、これまで調査した総長は40.32mである。幅は8.2～11.9m、深さは約2.0mである。

方向：これまでの調査成果からN-56°-Eである。

覆土：今回の調査区では4層分確認した。この4層は灰白色粘土質シルト、暗褐色粘土質シルト、暗オリーブ灰色粘土質シルトを主体した自然堆積で、水の影響を受けた波状葉理層が確認

できる。この4層の下に砂礫層があり、この砂礫層の上の一部も、本来溝の最下層とすべきものが含まれると考えられるが、湧水及び極端に縮まりが弱い層相から分層して認識することができていない。

初見：この流路跡は東流し、現在の高麗川の方向に注いでいた。

遺物：今回の調査では、出土していない。

時期：西隣の調査時に6号流路跡から吉ヶ谷式の壺と台杯壺(第6図左上)が出土しており、この出土遺物から弥生時代後期～古墳時代前期には埋設していたことがわかる。

第4章 まとめ

下田遺跡7区では、弥生時代末から古墳時代初頭以降に埋設した流路跡を調査した。流路の覆土は西から東に堆積し、東流していた。これ

は荒川低地を北西から南東へ流れ、現在の高麗川の方向に注ぐ、小河川の河道の一つである。

引用文献 参考文献

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2013.3『下田遺跡-坂戸地区付加車線・坂戸西スマートインターチェンジ建設事業関係埋蔵文化財調査報告-』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第401集、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

古代の人間を考える会 2008.5『論叢 古代武蔵國人間郡家—多角的視点からの考察—』古代の人間を考える会

古代の人間を考える会 2017.5『人間・高麗・多摩郡—高麗郡の成立と周辺地域—』古代の人間を考える会

坂戸市 2012.3『下田遺跡1—下田遺跡1区—1発掘調査報告書—』坂戸市

坂戸市教育委員会 1983.3『坂戸市史』原始史料編、坂戸市

坂戸市教育委員会 1992.3『坂戸市史』古代史料編、坂戸市

坂戸市教育委員会 2017.10『下田遺跡2—下田遺跡2区・4区発掘調査報告書—』坂戸市教育委員会

坂戸市教育委員会 2019.3『下田遺跡3—下田遺跡3区・5区発掘調査報告書—』坂戸市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	しもだいせき							
書名	下田遺跡 4							
副書名	下田遺跡7区発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	吾妻俊典、山本良太							
編集機関	坂戸市教育委員会							
所在地	〒350-0292 埼玉県坂戸市千代田一丁目1番1号 TEL 049-283-1331							
発行年月日	2021年5月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもだいせき 下田遺跡 (7区)	さいたまけんさかどし 埼玉県坂戸市 にし 西インター1丁目 1-1, 1-2	11239	27-155	35° 58' 02"	139° 22' 58"	20210222 ～ 20210305	12㎡	事業所建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
下田遺跡	河川跡	弥生時代後期～ 古墳時代初期	流路跡 1条	なし	なし			
要約	弥生時代後期～古墳時代前期には埋没していた流路跡を調査した。							

下田遺跡4

- 下田遺跡7区発掘調査報告書 -

発行 令和3年(2021)5月31日
埼玉県坂戸市教育委員会
埼玉県坂戸市千代田一丁目1番1号
印刷 能登印刷株式会社
石川県金沢市武蔵町7番10号